【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】令和3年10月7日(2021.10.7)

【公表番号】特表2020-532359(P2020-532359A)
【公表日】令和2年11月12日(2020.11.12)
【年通号数】公開・登録公報2020-046
【出願番号】特願2020-511982(P2020-511982)
【国際特許分類】
Ａ６１Ｆ　11/10　　(2006.01)
Ｇ１０Ｋ　11/16　　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６１Ｆ　11/10
Ｇ１０Ｋ　11/16　　１１０

【手続補正書】
【提出日】令和3年8月27日(2021.8.27)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
近位端と、遠位端と、主外面と、前記近位端から前記遠位端まで延びる長手方向軸と、を有するコアと、
前記コアの前記主外面に取り付けられた音響減衰体であって、基部及び先端部を有し、前記コアの前記遠位端が、前記音響減衰体内に配置されており、前記先端部が、前記コアの前記遠位端を越えて遠位に延びている、音響減衰体と、
前記先端部から近位に延びており、かつ遠位開口部を含む、前記音響減衰体の先端キャビティであって、前記音響減衰体によって形成された側壁及び前記コアの前記遠位端によって少なくとも部分的に形成された底部によって画定される容積を有し、前記先端キャビティの側壁は、前記長手方向軸に向かって内向きに延びる複数の突出部を有する、先端キャビティと、
を備える、
耳栓。
【請求項２】
前記突出部のそれぞれは、前記コアの前記遠位端に接触する近位端を有する、請求項１に記載の耳栓。
【請求項３】
前記複数の突出部のそれぞれが、前記コアの前記遠位端に熱結合されているか、前記複数の突出部が、前記音響減衰体と一体成形されている、請求項１に記載の耳栓。
【請求項４】
前記複数の突出部のそれぞれは、前記先端キャビティの前記底部から遠位に延びている、請求項１に記載の耳栓。
【請求項５】
前記先端キャビティは、前記コアの前記遠位端にある平面において第１の主断面寸法を、前記遠位開口部に隣接する平面において第２の主断面寸法を有し、前記第１の主断面寸法は、前記第２の主断面寸法よりも大きい、請求項１に記載の耳栓。
【請求項６】

前記複数の突出部のそれぞれが、前記先端キャビティの前記遠位開口部まで延びる長さを有する、請求項１に記載の耳栓。
【請求項７】
前記複数の突出部は、前記先端キャビティの前記遠位開口部を通して可視である、請求項１に記載の耳栓。
【請求項８】
前記コアは、第１の材料で作製されており、前記音響減衰体は、第２の材料で作製されており、前記第１の材料は、前記第２の材料とは異なる、請求項１に記載の耳栓。
【請求項９】
前記音響減衰体が、前記コアの前記外側主表面の少なくとも一部分に熱結合されており、かつ、前記耳栓が、接着剤を含まない、請求項１に記載の耳栓。
【請求項１０】
前記第１の材料が、熱可塑性樹脂を含むか、前記第２の材料が、熱可塑性樹脂、部分熱硬化性樹脂、熱硬化性ポリマー、又はこれらの組み合わせを含む、請求項８に記載の耳栓。